

観光客試飲イベント(首里城)

- 目的/ 首里城に新しく整備された「銭蔵(ぜにくら)」を活用した泡盛試飲コーナーを設置し、かつて泡盛を管理したと言われるその場所銭蔵にて、いにしへの琉球に思いを馳せながら、泡盛を堪能頂く。沖縄を訪れる多くの観光客をターゲットにトライアルを展開する。

※首里城公園開園25周年記念事業併催

- 概要/ 実施場所: 首里城公園内 銭蔵(休憩所)、首里杜館
実施日時: 平成29年 11月1日(水)/泡盛の日 ~ 11月5日(日)/首里城祭
11月1日(水) 10:00~16:00(泡盛の日)
11月2日(木) 10:00~16:00
11月3日(金) 10:00~21:00(首里城祭)
11月4日(土) 10:00~21:00(首里城祭)
11月5日(日) 10:00~16:00(首里城祭)

実施内容: <<11月1日(水)~5日(日)>>

(1) 琉球泡盛文化の普及啓発

- ・展示パネル(酒造組合)→泡盛に関するパネルの展示
- ・琉球酒器の展示→数種類の酒器の展示
- ・仕次ぎ疑似体験→甕を3個用意して、水を使用して模擬で仕次ぎを体験して貰う

(2) 泡盛の販売促進

- ・開園25周年記念泡盛の販売
- ・首里紀行(首里4蔵元ブレンド泡盛)の販売

(3) 県内46銘柄の試飲・販売(喜屋武商会)

→泡盛を知って頂く為に、46銘柄の泡盛を展示し試飲及び販売を行う

(4) 泡盛の女王派遣

(5) 銭蔵会場琉球楽器のBGM生演奏(芸大OB)

<<11月3日(金)、4日(土)>>

(6) 泡盛の振る舞い ※銭蔵夜間

(7) 琉球楽器の生演奏(芸大:山内准教授) ※銭蔵夜間

(8) 泡盛BAR(泡盛マイスター協会連携)

→首里杜館前芝生広場にて、泡盛普及の為に泡盛ショット・カクテル販売

<<11月3日(金)~5日(日)>>

(9) 泡盛に関する講座(ワークショップ)開催

→泡盛の歴史や古酒の話や首里城と泡盛の歴史等

講師: 賀数仁然、元泡盛の女王、山原島酒之会

主催: 沖縄県酒造組合、首里城公園

後援: 沖縄国税事務所

観光客試飲イベント(首里城)

■ 成 果/ (課題化)

● 銭蔵での試飲コーナー

銭蔵の立地環境が、首里城(有料区域)を訪れた方の導線上に位置している事もあり、実施期間全体を通して多くの来場者をお迎えする事ができた。

泡盛の試飲に対する興味関心も比較的高く、試飲杯数が当初予想2,500杯を大きく上回る約4,500杯を提供することができ大変好調な結果を残す形となった。期間を通して比較的天気にも恵まれた事も好材料となった。

● 泡盛文化の普及啓発

泡盛文化の普及啓発を目的に、パネル展示や、仕次ぎ疑似体験、酒器の展示等を展開し泡盛の様々な側面に興味を持って貰えるよう工夫を凝らした。酒器展示については手に取られたりする等興味深く観察される方が多く見られたが、仕次ぎ疑似体験は、専属の説明員を配置しなかった事もあり、あまりトライアル頂くことができなかった。

泡盛に関するワークショップでは、日ごとにテーマを代え様々な観点から泡盛の魅力発信するプログラムとして実施を行った。講座はどれも興味深く聞き応えのある内容であったが、観光地において30分以上の滞在を前提とする事などから、どの程度の参加者が得られるのか懸念もあり、事前の申込制として展開をおこなった。いくつかのプログラムでは定員を満たさない講座が見受けられ、実施する場所や、時間の設定、実施方法などについて再検討を行っていく必要がある。

● アトラクション

BGMとして展開した芸大OBによる古典音楽の生演奏では、本格的な演奏を提供する事によって、ゆったりとした雰囲気を楽しんで頂くことができた。また、生演奏という事も会場への誘引効果にも一役買っていた。

夜間イベントとして実施した「琉球古典音楽の美」では、芸大の山内准教授をお招きし、いにしへの首里城において、質の高い古典音楽を聴きながら泡盛を振舞う大変ぜいたくなプログラムとして演出を行った。演奏中に月も顔を出すなど、大変豊かな雰囲気の中でゆったりと泡盛をご堪能頂くことができた。

● 泡盛販売

首里杜館では、実際に試飲を行った46銘柄の販売を展開し、期間中210本を販売することができた。銭蔵と距離があることが懸念されたが、銭蔵での試飲を経由された方も多く見られ、結果としては概ね良好であった。

首里城公園とのタイアップは、非常に多くの観光客との接点であり、場所柄としての親和性も高く、泡盛を知らない観光客に対してプロモーションを行う機会として大変優れたイベントであった。

実際に試飲(トライアル)してみても興味を持たれる方も非常に多く、実際に購入に繋がるケースも見られた事から、今後更なる試飲機能の強化や、泡盛文化の魅力伝える取組みの工夫、アトラクションとしての楽しみを充実させるなど、イベント全体の規模拡大を行っていく必要がある。